

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月13日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>○「自立と社会参加」をめざし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した授業を実践する。</p> <p>○自分も他者も大切にし、共感的な人間関係を育成する教育活動を実践する。</p>	<p>①ICT 機器等を活用し、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を実践する。</p> <p>②協働的な学びを通して、児童・生徒が自分や他者の良さに気づき、共感しあえる授業を実践する。</p>	<p>①電子黒板も含めたICT 機器等の活用のバリエーションを増やし、個々のニーズを踏まえ、授業で活用する。</p> <p>②指導略案に児童・生徒相互が関わる場面を明記し、授業を実践する。話し合い等、児童・生徒が相互に関わる授業を増やす。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じ、ICT 機器を活用した授業が増えたか。</p> <p>②協働的な学習を通して、児童・生徒が相互に理解し、自分や他者の良さに気づくことができたか。</p>	<p>①ニーズを踏まえ、タブレット端末やアプリケーション、入力装置等、ICT 機器を活用した授業が増えてきており、生徒が主体的に授業に参加できるようになってきた。 【(教員)肯定84%】</p> <p>②児童生徒がお互いに関わる学習を意図的に設定することで、関りを通して自分や他者の良さに気づくことや共感しあうことが増えてきている。 【(教員)肯定87.3%】</p>	<p>①ICT 機器の活用が目的になっている授業もある。児童・生徒一人ひとりの身につけさせたい力を踏まえた機器の活用が課題。研修により、活用のバリエーションを増やし、ニーズに応じて整理する。</p> <p>②指導略案への明記は一部にとどまった。指導案ではなくキャリアパスポートの活用により、児童・生徒が自分の良さに気づき、他者を認めることができるようになっていく。</p>	<p>①ICT 機器の活用が増えているので、次年度は活用方法を整理し深めていけると良い。アンケートでどちらとも言えないのは状況がわからないため。授業参観をすると良い 【(保護者)肯定73.5%、どちらとも言えない20.5%、否定6%】</p> <p>②指導略案への明記を次年度も続けるか、できないのであれば、できなかったとはっきり記載し、別の取組について検討すると良い 【(保護者)肯定83%、どちらとも言えない15%、否定2%】</p>	<p>①ICT 機器等の活用は定着してきているが、活用の『目的』を再定義し、個々に応じた活用方法の整理が課題である。また、授業の質向上のため、教育課程の見直しによる授業準備時間の確保を並行して行う。</p> <p>②児童生徒が相互に関わる授業は意図的に行われている。児童・生徒が自分や他者の良さを認識するための仕掛けづくりが課題。</p>	<p>①教育課程の見直しを図ることで、授業準備の時間を確保し、教育的ニーズに応じた授業の充実を図る。 ICT 機器の活用による「できる」「わかる」授業を実践する。</p> <p>②自分の良さに気づくためのツールとしてキャリアパスポートを活用する。 ※視点3で取り扱う</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>○一人ひとりの教育的ニーズを捉え、根拠に基づいた組織的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>○教育活動全体で人権尊重の視点に立ち児童・生徒が安全で安心して過ごせる学校づくりに取り組む。</p>	<p>①アセスメントに基づいた個別教育計画の改善と指導への活用を組織的に進める。</p> <p>②保護者、教員、児童・生徒それぞれが、人権感覚を持ち、互いに尊重しあい、安心できる学級づくりに取り組む。</p>	<p>①各学部・部門の実態を踏まえたアセスメントを実施し、組織的に授業実践に生かす仕組みづくりを検討する。</p> <p>②不祥事防止研修において、人権尊重の視点の目標を学級ごとにたて、日常の授業に生かすとともに、振り返りを行う。</p>	<p>①アセスメントの結果を踏まえ、専門職等の意見を個別教育計画に取り入れ、ニーズに応じた授業を実践できたか。</p> <p>②学級ごとにたてた目標を踏まえ、人権を尊重した学級運営ができたか。</p>	<p>①計画通りアセスメントを実施し、結果を個別教育計画に記載している。担任のニーズを受け、日常観察により専門職が見立てを行い、授業実践に生かしている。【(教員)肯定65%、どちらともいえない27%、否定8%】</p> <p>②学期ごとに、人権尊重の視点の学級経営目標を設定。担任間でふり返り、修正を行うことで、定期的に人権尊重の意識を高めることができた。【(教員)肯定88%】</p>	<p>①アセスメントの結果は個別教育計画に記載されているが、目標設定につながらず、組織的にアセスメントを活用する仕組みづくりに至らなかった。チームにより実態を把握・共有し、個別教育計画に活用する仕組み作りを検討していく。</p> <p>②短時間でも学級ごとに協議する時間をもつことは同僚性を高めるために非常に有効であった。PDCA サイクルで引き続き取り組み、人権尊重の意識を高めていく。</p>	<p>①個別教育計画はもっと簡単にし、業務改善につなげ、日々の授業を元気に進めたい。 【(保護者)肯定84%、どちらとも言えない10%、否定6%】</p> <p>②次年度は、児童・生徒についても人権意識を高める取組をすすめると良い。 【(保護者)肯定90%、どちらとも言えない6%、否定4%】</p>	<p>①アセスメントは実施され、個別教育計画に明記されているが、組織的な目標設定や具体的な授業改善につながっていない。個別教育計画の記載内容が多く、重点課題を踏まえた目標設定になっていない。</p> <p>②人権尊重にかかる学級経営目標の策定・見直しを定期的に行うことで教員の人権意識は向上した。児童・生徒の人権感覚を育み、適切に行動できる指導の工夫が課題。</p>	<p>①本人の実態およびニーズ、保護者のニーズを踏まえ、重点課題を設定する。その課題に基づく目標および支援内容を簡潔に記載し、共有できるように、個別教育計画の書式を見直す。</p> <p>②児童・生徒自身が互いの良さを認め合い、人権意識を高めるための学級経営の仕組みを構築する。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>○キャリア教育の視点を持ち、児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことを見据えた教育活動を展開する。</p> <p>○児童生徒のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。</p>	<p>①卒業後の生活を見直し、学校生活の中で身に付けた力について共通理解をもって指導する。</p> <p>②児童・生徒や保護者が卒業後の生活をイメージし、自ら進路選択・決定するための進路指導・支援システムを検討する。</p>	<p>①卒業後の生活を見直し、学校生活において身に付けた力について、学部・部門で共有する。</p> <p>②進路先見学や卒業生の話を聞くことや、せやみつミーティングを通して、ニーズに応じた情報提供をする。</p>	<p>①各学部・部門で児童・生徒に身に付けた力について共通理解がもてたか。</p> <p>②児童・生徒や保護者が、進路先について理解をし、ニーズに応じた進路選択・決定ができたか。</p>	<p>①進路先で多く取り組まれている活動を校内実習で設定することで、働く場の共通理解がもてた。 【(教員)肯定87%】</p> <p>②本人や保護者の希望を丁寧に聞き取り、見学先等の紹介をした。ニーズに応じた進路選択・決定は、個により差がある。 【(教員)肯定74%どちらともいえない22%】</p>	<p>①ライフキャリアを含めた児童・生徒に身につけさせたい力と教育課程の位置づけについて各学部・部門で共通理解をもつことが課題。</p> <p>②児童・生徒が卒業後の生活をイメージし、進路選択をするために、教育課程の位置づけを教員が共通理解することが必要。保護者については、進路説明会への参加率を上げ、情報提供の方法を工夫する。</p>	<p>①② 小中学部の段階から進路に様々な可能性があることを伝えたいと良い。小中学部の授業にも進路担当が関わると良いのではないかと。保護者が知っていることを教員も知っておくことが必要。夏季にせやみつミーティングの開催し、教員も参加できると良いのではないかと。 【(保護者)肯定75.5%、どちらとも言えない18.5%、否定6%】</p>	<p>①② 本校のキャリア教育の教育課程上の位置づけを担任が認識し、共通理解することは引き続きの課題。保護者に提供されている情報を教員も知っておく必要がある。個々に対しては質問に応じて情報提供がなされている。保護者への進路に係る情報提供の充実を図ることが課題。</p>	<p>①② 教員向けに進路の研修を実施、キャリア教育の教育課程上の位置づけの認識を図る。併せて進路の手引きの作成を進める。進路にかかる保護者のニーズを把握し、進路だよりや短い動画(10分以内)等により、定期的に保護者に情報提供をする。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月13日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○学校コンサルテーションを基盤としたセンター的機能の充実を図り、校内・地域におけるインクルーシブな学校づくりを推進する。	①児童・生徒の卒業後を見据え、地域行事の参加や地域の学校との連携・交流等により、地域への学校理解をすすめる。	①学校の取組や役割を地域に発信する機会を増やす。 ②パラスポーツ等を通して、地域との連携・交流をすすめる。	①学校の役割や取り組みを発信する機会が増えたか。 ②パラスポーツによる地域との交流の機会が増えたか。	①学部ごとに学校の様子をHPで発信した。新たに、給食ができるまでの動画をHPに掲載するとともに、食育に関する取り組みを三ツ境祭で掲示し、好評を得た。地域からのお知らせをマチコミで保護者に配信する等、各家庭が地域とかかわるための情報提供を行った。【(教員)肯定66%どちらとも言えない27%】 ②近隣の小中学校とボッチャの交流を実施。希望者をつのり、高校とテニスや音楽による交流を実施した。【(教員)肯定81%】	①学部によって掲載数に偏りがある。学校の取組を知らない地域住民は多いとみられ、学校の取組について、時代に合った情報発信の方法を模索する必要がある。 ②パラスポーツの新たな取組はなかった。パラスポーツに限らず、地域交流を推進する方法を模索し、地域の学校理解をすすめていく。	①4年間の目標であるインクルーシブな学校づくりの推進から少し離れた取り組みとなっている。インクルーシブは地域社会づくりなので、高校や小学校の情報交換をするなど広い意味での発信をしてほしい。 【(保護者)肯定85%、どちらとも言えない12%、否定3%】 ②パラスポーツの講師派遣事業があるので活用して欲しい。	①マチコミの活用により保護者への情報発信は増えた。HPに情報を掲載しているが、視聴している人数に限りがあり、情報発信の方法を工夫する必要がある。 ②地域との交流やパラスポーツ交流については昨年度並みであった。パラスポーツに限定せず、地域との連携・交流の方法を模索することが課題。	①学校広報紙を作成し、HPや地域の掲示板や、回覧板で情報発信する。SNSの活用により、学校の情報を地域に発信する。見易さを踏まえ、ホームページの構成を見直す。 ②作品展等、地域への情報発信の方法を工夫する。地域の資源の活用や、作業学習等の地域との連携の場を模索する。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心な教育環境の整備に取り組む。 ○教職員の資質・指導力・専門性の向上を目指し、人材育成と不祥事防止に重点をおき、信頼と期待に応える学校運営と組織づくりを行う。 ○組織的な業務の効率化を図る。	①学校の防災体制を見直し、再構築する。 ②年間を通して不祥事の未然防止につながる情報共有を計画的に行う。 ③教育環境の整備、スリム化を進めるとともに、業務の見直し、削減を行うことで、職員の時間外労働を月45時間未満にする。	①校内の防災体制を見直し、整理するとともに、地域と防災体制の情報共有を図る。 ②ヒヤリハットを報告しやすい環境を作り、事例の共有を行う。 ③ ・オフィス改善を踏まえ、学校全体で業務の見直しを図るとともにTeamsの活用により、会議の整理やペーパーレス化をすすめる。 ・業務内容を取捨選択し、整理する。	①地域防災についての情報共有が進み、本校の防災体制の見直しが図れたか。 ②ヒヤリハット段階の報告数が増え、事故の未然防止に繋がったか。 ③ ・ペーパーレス化が進んだか。 ・45時間以上の時間外労働職員が減ったか。 ・業務内容の取捨選択ができたか。	①避難訓練の実施後に振り返りを行い、訓練や校内マニュアル等の見直しを図った。学校薬剤師と連携し本校の災害時のトイレ計画を策定した。学校運営協議会の作業部会において、地域防災の情報共有を行った。【(教員)肯定84%】 ②ヒヤリハットの報告様式を改訂し報告しやすくしたことで、報告数が増えた。(R5…11件、R6…11件、R7…34件) 報告内容を学部内で共有するとともに、1カ月後に振り返ることで、同様のヒヤリハットの発生回数が減少してきた。【(教員)肯定69%どちらとも言えない21%】 ③ ・オフィス改善により、執務環境が改善した。会議や勤務申請等、Teamsの活用によりペーパーレス化がすすんだ。【(教員)肯定58%、どちらとも言えない28%、否定15%】 ・45時間以上の時間外労働は平均月4名弱であり、徐々に超過時間数も減ってきている。【(教員)肯定49%、どちらとも言えない38%、否定13%】 ・次年度に向け、校務グループの構成を見直し、業務の平準化を図った。	①見直した防災体制をもとに実践的な訓練を実施し、ブラッシュアップを図る。地域との連携については、地域住民の平日参加が難しいことから、連携の方法について模索していく。 ②学部・部門等によって報告数にやや偏りがある。軽微なヒヤリハットでも報告をする習慣をつけるとともに、学部で共有をし、ヒヤリハット段階で抑える。 ③チャットでの会議が増えているが、顔を合わせた会議の必要性もあがっている。教育課程の見直しを図り、過当たりの短縮日課を増やすことで、打ち合わせの時間や教材研究の時間を確保し、教育の充実を図る。再編した校務グループについて、業務の平準化が図られているか検証をし、必要に応じて修正を図る。	①地域協働や防災の面についても地域との連携や情報発信や共有が進んでいるとのことから、引き続き取り組みを進めて欲しい。 【(保護者)肯定78%、どちらとも言えない21%、否定1%】 ② 【(保護者)肯定85%、どちらとも言えない14%、否定1%】 ③効率化を図ることができるのはどこか?という視点で検討すると良い。資料の情報量が多すぎる。資料作成の効率化や会議のスリム化に向け、検討してもらいたいポイントを明確にし、そのために必要な資料を作成するなど、発想の転換を図ると良いのではないか。	①校内の防災体制について見直しが図られた。次年度は見直した、マニュアルについての検証をすすめていく。地域との防災体制の情報共有や連携は引き続きの課題。 ②ヒヤリハット段階の報告が増えたことにより、同じようなヒヤリハットや不祥事は減ってきている。ヒヤリハット報告の定着をすすめる、不祥事防止を継続する。 ③チャットの活用により会議の効率化はすすんだ。会議の内容や回数を精選しスリム化をすすめる。資料のデータ閲覧や過去のデータ活用を効率よくすすめるために、フォルダ構成の見直しが課題。校務グループの構成を変更し、業務の平準化を図った。次年度はその検証をすすめる。校内の時間外労働は減っているが、短時間勤務者の持ち帰り業務は減っていない。業務時間の確保が課題。	①見直した防災体制をもとに実践的な訓練を実施し、ブラッシュアップを図る。学校運営協議会の作業部会を通して、学校防災の整備及び地域との連携方法を模索する。 ②ヒヤリハット報告の活用を更にすすめる、学部・学年で共有し、組織的に不祥事防止をすすめる。 ③職員会議、企画会議の内容や回数を精選する。授業の持ち方の見直しを図り、教材研究やグループ業務等の時間を確保する。新しい校務グループの検証を行い、業務の精選と効率化をすすめる。